

幣立神宮（熊本県上益城郡山都町大野 698）

幣立神宮は神武天皇（日本初代天皇）の孫である健甕龍命（たけいわたつみのみこと）が、この地幣を立て宇宙から降臨された神々を祀ったことが始まりと伝承されているとのことである。幣立神宮は高天原神話（たかまがはらしんわ）の発祥の神宮であるとの由緒に記されている。その神宮は国道 218 号線と 265 号線が交差する要衝の地にあり、218 号線は松橋 I.C. からの阿蘇観光サザンルートにあり、そのルートは通潤橋、道の駅「清和文楽邑」、馬見原商店街（肥後と日向の国を結ぶ日向街道の宿場町）および高千穂神社などを通り延岡方面へ繋がる地にあり、265 号線は高森峠、道の駅「そよ風パーク」および馬見原商店街などを通り椎葉方面へ繋がる地にある^{注 1) 注 2)}。神宮に降る雨は東は五ヶ瀬川を通じて太平洋へ流れ、西の方へは緑川を通じて有明海、遠くにはインド洋へと通じていて九州の屋根の分水嶺となっている^{注 3)}。

幣立神宮は、現在、樹齢一万五千年（命脈で実際は二千年位の 4 代目）と伝えられている檜の巨樹がそびえ、ここに天孫が降臨され^{注 4)}、神の御霊（みたま）いわゆる神漏岐[カムロキ：男神で伊弉諾命（いざなぎのみこと）を指す]と神漏美[カムロミ：女神で伊弉冉命（いざなぎのみこと）を指す]が留まっているということである。ここで、天孫降臨とは、天孫の瓊瓊杵尊（ににぎのみこと：神武天皇の曾祖父）が天照大御神の神勅を受けて三種神器をたずさえて雨児屋命（あめのこやねのみこと：中臣氏や藤原氏の祖神）などの神々を連れて、葦原中国（あしはらのなかつくに：地上世界を指す）を治めるために、高天原（たかまがはら：天上あめつち神々が生まれる場所）から地上へ向かう途中猿田昆古神によって地上に案内をしたとされる^{注 5)}。

ところで、幣立神宮の名の由来は神武天皇の孫にあたる健甕龍命（たけいわたつのみこと）が日向国から五ヶ瀬川に沿って高千穂、美馬原を通って草部に入るとき、一羽の白鳥が幣立神宮へ案内し、健甕龍命がこの地に御幣（ごへい）を立てて奉祀されたということに起因しているし、またこの地が高天原・日の宮としている^{注 6)}。

最近、若い世代から、幣立神宮はパワースポットとして参詣を受けられている。それは、わが国で一番古い神社と伝えられており大宇宙大和神（おおとのちのおおかみ）が祀られていること、その神は現在地球全人類の各祖神[勾々奴智神（オーストラリア人：青若しくは緑）、火具土神（アメリカ人：赤）、埴安姫神（アジア人：黄）、金山彦神（アフリカ人：黒）および水波女神（ヨーロッパ人：白）の五色神]が祀られている^{注 7)} こと、中央構造線（金剛山地東縁から、和泉山脈の南縁、淡路島南部の海域を経て、四国北部を東西に横断し、伊予灘、別府湾を経て湯布院に達する長大な断層帯^{注 8)}）上にあることである。この構造線を延長し九州でみても、別府湾を経て湯布院、熊本県、鹿児島県の笠沙の岬に達している^{注 9)}。

九州の中央構造線（断層）上の代表的な神社として、幣立神宮があり、神社以外では薩摩半島の南西部にある野間半島に位置している笠沙がある。笠沙の地名は『古事記』の天

孫の降臨の段に登場する笠沙の御前（かささのみさき）に由来する^{注10)}。そして黒瀬の海岸には「瓊瓊杵尊上陸の地」とする碑があり、野間岳の山腹にある宮ノ山遺跡には、この地に上陸した瓊瓊杵尊が宮居を定めた場所との伝承されている^{注11)}。

注

注1) 南阿蘇観光協会連絡協議会「みなみあそぐる一つとマップ」南阿蘇観光協会連絡協議会. 2017年6月配布分.

注2) 高森町役場政策推進課・高森町観光協会、山都町役場山の都創造課・山都町観光協会『九州 おへそロードー218 oheso road265GUIDEー』高森町・山都町. 2017年6月配布分. 3頁、5頁および13頁。

注3) <https://kumamoto.guide/look/terakoya/104.html> より参照。

注4) 同上より参照。

注5) 参考文献〔1〕の神代 下の55～89頁より参照。

注6) 前掲のHPより参照。

注7) <https://ameblo.jp/agnes99/entry-12151630663.html> より参照。

注8) https://www.jisin.go.jp/rs_chuokozosen より参照。中央構造線は金剛山地東縁より北方へ延長すると、その線上には高野山金剛峯寺、伊勢神宮、豊川稲荷、諏訪大社上社および鹿島神功などが位置している。

注9) <https://ameblo.jp/agnes99/entry-12151630663.html> より参照。

注10) 参考文献〔3〕177頁と181頁を参照。

注11) <https://yascovicci.exblog.jp> の「宮ノ山の神代笠沙宮跡を散策」と「皇孫・瓊瓊杵尊御駐鼻の地」の写真と文章を参照。

参考文献

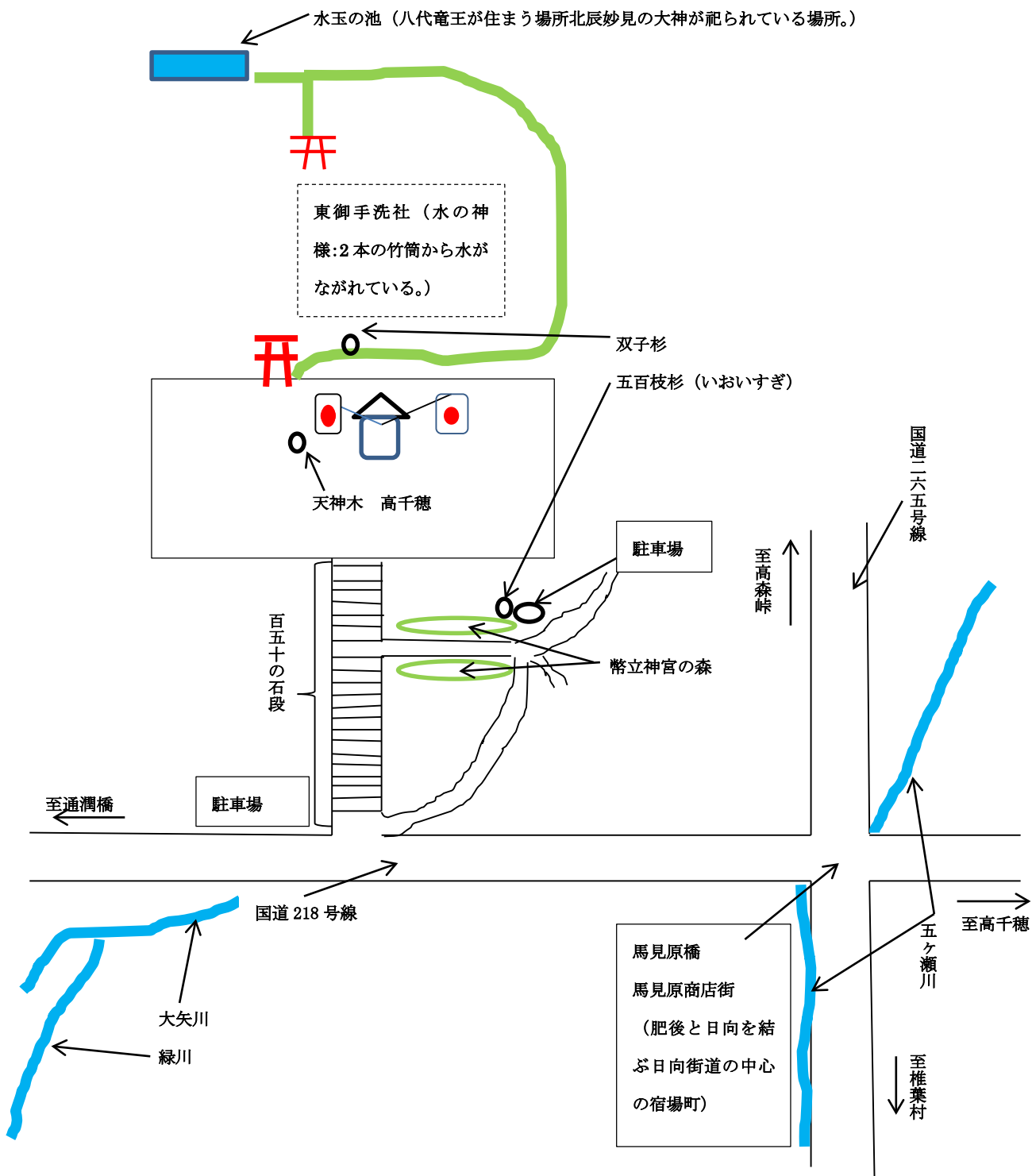
〔1〕宇治原 孟『全現代語訳 日本書紀 上』株式会社講談社，2009年1月。

〔2〕坂本太郎・家永三郎・井上光貞・大野晋校注『日本書紀（一）』岩波文庫，1999年9月。

〔3〕次田真幸『古事記（上）全訳注』株式会社講談社，2007年12月。

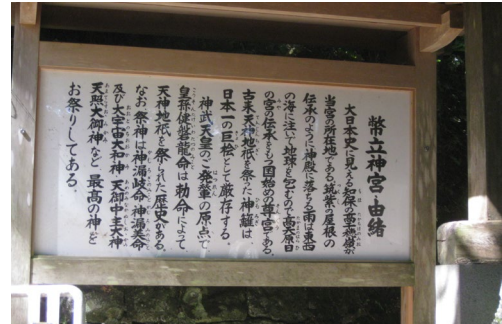
〔4〕次田真幸『古事記（中）全訳注』株式会社講談社，2008年12月。

幣立神宮および周辺マップ





幣立神宮の石段



幣立神宮由緒



幣立神宮本殿



隠れ宮の由緒



東の宮（日宮の初代神官 天兒屋命：あめのこやねのみこと）



筑紫の屋根の碑等



天神木 高千穂



本殿から下に降りていく



東水神宮



東水神宮



水玉の池(八代竜王が住まう場所北辰
妙見の大神が祀られている場所。)



水玉池のほとりにある悠紀田といわ
れる新田



幣立神宮の森 1



幣立神宮の森 2



幣立神宮の森 3



幣立神宮の森 4



幣立神宮の森 5



幣立神宮の森 6



幣立神宮の森 7



幣立神宮の森 8



幣立神宮の森 9



幣立神宮の森 10